

令和4年度（2022年度）第1回

新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会

議 事 録

日 時：令和4年8月27日（土）午前10時開会

場 所：千歳市祝梅コミュニティセンター

令和4年度（2022年度）第1回 新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会

・日 時 令和4年8月27日（土）10：00～11：39

・場 所 千歳市祝梅コミュニティセンター 1階 4号室

・議 題

- （1）新千歳空港における最近の動向について
 - （2）令和3年度航空機騒音測定結果等について
 - （3）住宅防音対策の進捗状況等について
 - （4）地域振興対策の進捗状況等について
 - （5）新千歳空港周辺地域振興基金について
 - （6）その他
-

◎地域委員 出席者（18名）

◎北海道（6名）

◎千歳市（6名）

◎（公財）新千歳空港周辺環境整備財団（4名）

◎北海道エアポート株式会社（4名）

1. 開 会

●千歳市（空港政策課長） 皆さん、おはようございます。

定刻となりましたので、始めさせていただきますと思います。

協議会の開会に先立ちまして、皆様にご案内とお願いがございます。

本日の協議会では、新型コロナウイルス感染症への対応といたしまして、人と人との距離の確保、検温の実施、手指の消毒、会場内の換気、マイク等の消毒の徹底など、新北海道スタイルとして感染防止対策を実践しての開催となります。

また、北海道コロナ通知システムへのメールアドレスご登録のお願いとしまして、お手元に配付しておりますが、こちらのQRコードを読み取っていただき、ご登録いただきますと、本日、施設を利用した方の中から、万が一、感染者が確認された場合は、行動履歴を基に、同じ日に同じ施設を利用していたことと体調管理の注意喚起をメールでお知らせいたします。

本システムへの登録について、ご協力をお願いいたします。

また、皆様におかれましては、マスクの着用と咳エチケットの徹底について、改めてご協力をいただきますようお願いいたします。

本日の開催に当たりましては、感染拡大の防止対策を講じておりますが、万が一、出席された方で感染が分かった場合につきましては、お手数ではございますが、事務局である市の空港政策課までご連絡いただければと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

それでは、ただいまより、令和4年度第1回、通算56回目となります新千歳空港の24時間運用を巡る千歳市地域協議会を開会いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に沿って進めてまいります。

2. 挨拶

●千歳市（空港政策課長） まず初めに、北海道総合政策部交通企画監よりご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監） 皆様、おはようございます。

本日は、土曜日の朝にもかかわらず、地域協議会にご出席いただきまして、本当にありがとうございます。心からお礼を申し上げたいと思います。

委員の皆様方には、日頃から新千歳空港の24時間運用をはじめ、道の航空行政にご理解とご協力を賜っていることに関しましても、重ねてお礼を申し上げたいと思います。

さて、新千歳空港におきましては、令和3年度の旅客数が前年度比4割増の約923万人と回復の傾向を見せております。また、7月には、AIRDOの福岡線の新規就航や大韓航空などによります韓国・ソウル線の再開など、道内経済にとって明るい話題も出てきているところでございます。

一方で、司会からもありましたように、いまだに新型コロナウイルス感染症は全国各地で広がっておりますし、道内においても高止まりの状況になっております。

道では、「BA. 5対策強化宣言」ということで、オミクロン株対策の強化を行いまして、8月10日から31日までの間は、夏の感染拡大防止パッケージといたしまして、保健・医療提供機能の十分な発揮、感染防止行動の徹底とワクチンの接種、さらには感染防止対策と社会経済活動の両立の三つを柱とした取組を実施しているところでございます。

今後につきましても、引き続き感染症の拡大防止に努めながら、道内、そして道外への移動など、航空需要の拡大に努めてまいりまして、新千歳空港に一日も早く活気が戻ってくるように努力してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、新千歳空港の24時間運用の推進につきましては、ここにいらっしゃる地域の皆様のご理解とご協力が何よりも大切と我々は認識しておりまして、このコロナ禍におきましても、30枠合意において皆様にお約束させていただきました住宅防音対策、さらに地域振興対策については、市、財団、北海道エアポートとしっかり連携しながら、着実に推進してまいりたいと考えております。

本日の地域協議会におきましては、皆様から忌憚のないご意見をいただければと存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

●千歳市（空港政策課長） ありがとうございます。

続きまして、千歳市副市長よりご挨拶を申し上げます。

●千歳市（副市長） 皆様、おはようございます。

お久しぶりといえますか、皆さんとなかなかお会いする機会がなく恐縮でありますけれども、本日は、何かとお忙しい中、本協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

また、皆様には、日頃から新千歳空港の24時間運用、さらには、本市のまちづくり、いろいろな分野におきましてご支援、ご協力をいただいておりますことに、心からお礼を申し上げたいと思います。

今、冒頭に司会から、また道の交通企画監からもお話がありましたように、コロナの関係でちょっとお話しさせていただきたいと思っておりますけれども、なかなか減らない状況であります。全国的にもそうではありますが、本市におきましても、傾向としては、やはり高めに推移をしているということで、第7波のピークアウトがなかなか見えないという状況でもありますが、そういう中でも、皆さん方におかれましては、基本的な感染対策を含めて本当に皆さんやっただいていてと思いますし、ワクチン接種についてもご協力をいただいていると思っております。

これからお盆が過ぎて、また小中学生の夏休みが明けてということで、まだまだ気を緩めることができませんが、引き続き行政としても感染対策の徹底と、ワクチンの特に若い世代の接種率の向上ということに努めてまいりたいというふうに思っております。

一方で、市内におきましては、この2年間、ほぼ中止となっておりましたイベントや行事の類いを、今年は感染対策を工夫しながらではありますが、徐々に開催してきております。やはり、そういう状況で人が集まったりということはありませんけれども、そこはバラ

ンスを取りながら、しっかりと両方をにらみながら進めていきたいというふうに思っております。

また、空港におきましては、これも交通企画監からご紹介がありましたけれども、徐々に、特に国内線におきましては、旅行需要の高まりや、また、特に行動制限がないということもありまして回復傾向が見られます。空港に行く機会もありますけれども、やはり、そういう状況というのは実感として受けております。

そういうことから、慎重な部分がありますけれども、もっともっと空港が元気になってほしいというふうに思っております。

やはり、本市は空港とともに発展してきたまちでありますので、空港に元気がないということは、まちの人口や雇用や経済状況、いろいろな面で、特にこの2年半は影響を受けてきております。できるだけ航空需要を回復できるように、私たちとしても、例えば具体的には、市民の皆さんを対象に、空港内の商業施設等で利用できる商品券の配付とか、空港を出発する便を利用する市民の方への航空運賃の助成を行うといった取組を現在行っているところでもあります。これについては、北海道、また、北海道エアポート株式会社、関係団体などと連携して取り組んでいるところでもありますので、皆様には、こうしたこともご理解いただきながら、もしご利用いただける際は活用していただければというふうに思っております。

本日の議題は、住宅防音対策、地域振興対策の進捗状況などにつきまして北海道から説明をいただくこととなりますが、市といたしましても、地域の皆様と情報の共有を図りながら、北海道や財団、北海道エアポートと連携して取組をこれからも進めてまいりたいと思っております。

皆様には、新千歳空港の発展について、これからもご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。

●千歳市（空港政策課長） ありがとうございます。

◎事務局連絡事項

●千歳市（空港政策課長） 次に、次第の3番目、本日の議題でございますが、（1）新千歳空港における最近の動向について、（2）令和3年度航空機騒音測定結果等について、（3）住宅防音対策の進捗状況等について、（4）地域振興対策の進捗状況等について、（5）新千歳空港周辺地域振興基金について、（6）その他となっております。

次第の下段に配付資料を載せておりますが、資料がお手元がない場合は、事務局まで申し出ください。

本日、これらの説明につきましては、北海道と北海道エアポートから説明いたします。

なお、ご意見、ご質問につきましては、各議題の説明の後、随時伺いいたしますので、よろしく願いいたします。

本日の協議会の終了時間につきましては、おおむね11時30分頃を目途にしたいと考えておりますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

3. 議 事

●千歳市（空港政策課長） それでは、議事に入ります。

議題（1）新千歳空港における最近の動向について、北海道及び北海道エアポートから説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 初めに、議題の一つ目となっております新千歳空港における最近の動向についてご説明申し上げたいと思います。

資料につきましては1ページ、資料1-1の「新千歳空港における最近の動向について」をご覧くださいと存じます。

まず、資料の上段ですが、1の「深夜・早朝時間帯における定期便の状況」についてでございますけれども、この資料につきましては、令和4年7月までの運航実績について整理をさせていただいております。

今年度の夏ダイヤ、表の上のほうに記載しておりますけれども、令和4年3月27日から10月29日までの間におきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受けておりました令和3年度と比較いたしまして2便ほど増加をしております。現在、1日最大6便の運航をされているというところになっております。

次に、下段の表ですが、2の「深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便の状況」についてでございます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響のため、令和2年度以降、本年7月末までの間の運航につきましては、表にも記載しておりますけれども、なかったところとなっております。新型コロナの影響が長期に及ぶ中、今後も深夜・早朝時間帯の発着枠の有効活用に向けまして、道といたしましても、航空路線の需要を高めていくことができますよう取り組んでまいりたいというふうに考えております。

次に2ページ目、資料1-2の「新千歳空港の近況について」でございますけれども、この資料につきましては、北海道エアポート株式会社さんのほうからご説明いただきたいというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当次長） おはようございます。

今年の3月に弊社に採用されまして、それ以前は、2月までは千歳基地の第2航空団司令部に勤務いたしておりました。引き続き航空業ということでもありますけれども、基地も新千歳空港も同じく周辺地域住民の皆様方のご理解とご協力なくして運営はいかないというところを強く認識しながら、今後ともよろしく願い申し上げる次第でございます。

それでは、着座してご説明申し上げます。

新千歳空港の近況について、資料1-2でございます。

本年の発着便数についてですが、国内線につきましては、東京便を中心に復便が続いま

して、対前年度比で最大2倍と増加傾向で推移しておりますが、コロナ前の2019年と比較いたしますと7割から9割程度となっております。

国際線につきましては、約2年4か月の間、全路線で運休しておりましたが、報道等でご存じのとおり、7月17日にソウル近郊、仁川空港との運航が再開されております。

なお、中国、台湾等への貨物便の運航は、コロナ禍におきましても細々と継続されている状況でありました。

続きまして、下段、旅客輸送実績についてですが、国内線では、ワクチンの普及や自治体等によります観光需要喚起策等の影響と見られる移動増により、旅客数が前年を上回る水準で推移しております。しかしながら、期間中、コロナ前と比較しますと7割に満たず、まだ厳しい状況と言えます。

国際線につきましては、仁川便と同様、今後の運航再開に期待したいところでございます。

北海道エアポートからは以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問がございましたら、挙手の上、ご発言をお願いいたします。

ありませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） 特になければ、議題（1）新千歳空港における最近の動向については報告済みとさせていただいてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、報告済みとさせていただきます。

次に、議題（2）令和3年度航空機騒音測定結果等について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 引き続き、私のほうからご説明させていただきます。

議題の二つ目、令和3年度航空機騒音測定結果等についてご説明申し上げたいと思います。

資料につきましては、3ページ、資料2-1の「令和3年度航空機騒音測定結果について」という資料をご覧くださいと存じます。

まず、航空機騒音の測定局についてでございます。

千歳市内におきましては、道が設置いたしました東郊局、梅ヶ丘局など9局、それから、千歳市が設置しました青葉丘局、住吉局など8局の合計17局が設置されているところでございます。

表の方をご覧くださいと存じます。表の右側には、年間Lden値と民航Lden値といったものを記載させていただいております。

年間Lden値につきましては、新千歳空港を離着陸いたします自衛隊機を含んだ全て

の航空機騒音、こちらのほうを集計した結果となっているところでございます。

また、民航L d e n値につきましては、自衛隊機の離着陸のなかった日を民航機のみ航空機騒音を測定した日というふうにみなしまして集計した形となっているところでございます。

これを踏まえまして、千歳市におけます測定結果についてでございますが、表の太枠で囲った部分をご覧いただきたいというふうに思っております。令和3年度におけます民航L d e n値につきましては、梅ヶ丘、根志越東、旭ヶ丘、駒里、弥生公園、寿、里美の7つの測定局で昨年度、令和2年度の数値を上回った結果となっております。

一方、東郊局や富丘局などの残り10局につきましては、昨年度を下回る結果というふうになったところでございます。

いずれの局におきましても、この表の真ん中に参考L d e n換算値と書かれておりますけれども、いわゆる対策の目標目安となります環境基準というふうに捉えていただきたいと思っておりますが、こちらの数値を全て下回ったところとなっております。

次に、資料の4ページ、資料2-2の「令和3年度遅延便の深夜・早朝時間帯使用状況について」をご覧いただきたいと存じます。

まず、この資料におけます遅延便の考え方でございますが、地域の皆様にお認めいただきました深夜・早朝30枠以外の便で、出発ないし到着が予定より遅れたということに伴いまして、深夜・早朝時間帯を使用した便というふうになっております。

まず、1の「航空会社別便数」についてでございます。

令和3年度の遅延便の全体といたしましては、「R3」の計欄に記載しておりますけれども、170便というふうになっておりまして、航空会社別ですと、AIRDOが64便と一番多くなっているところでございます。全体の約38%を占めている状況でございます。

次に、その下にございます2の「遅延理由別便数」についてでございますけれども、令和3年度におきましては、天候による遅れが88便と一番多くなっておりまして、全体の約52%というふうになっております。

この天候による遅延につきましては、その下のほうにグラフでも整理をさせていただいております。赤色が令和3年度となっておりますけれども、1月の遅延便が50便ということで一番多くなっているといった状況になっております。これは、主に1月上旬なのですけれども、大雪による影響で遅延便が多く発生したということとなっているところでございます。

次に、一番下の表ですけれども、3の「時間帯別便数」についてでございます。

例年ではございますけれども、22時から22時19分の約20分間に遅延便が一番多くなっているという状況となっております。令和3年度も同様となっております。この時間帯での遅延便が74便というふうになっておりまして、全体の44%を占めている状況となっております。

また、この74便を含めました22時台の遅延の状況でございますけれども、表の左から3つ目までの部分でございますが、合計いたしますと139便となっております、全体の約82%を占めているという状況となったところでございます。

続きまして、資料の5ページ、今度は横表になってございます資料2-3、「千歳市側と苫小牧市側の着陸の状況について」でございます。

この資料につきましては、千歳市側にある旭ヶ丘局、それから、苫小牧市側にある植苗局のそれぞれの測定局の測定値から着陸方向を判断いたしまして、7時から21時59分までの間、それから、22時から翌朝6時59分までの間、それぞれの時間帯に分けて回数をカウントしているという形で整理をしております。

新千歳空港を発着する航空機につきましては、空港を離陸後、東京方面をはじめとして目的地に向かって南下する便が非常に多くなっていることから、千歳市側から離陸した場合、離陸後、目的地方向でございます南向きに旋回するというので、苫小牧市側へ向かうこととなります。そのため、苫小牧市側の測定局におきましても、千歳市側からの離陸に係る騒音を計測することが往々にしてありますことから、離陸数に関しましては、正確な数字を取ることが困難といったこともございまして、この資料につきましては、これまでと同様の資料の作り方になっておりますけれども、着陸数のみに着目して整理した形を取らせていただいております。

それでは、資料の上段の表、令和3年度の着陸数についてでございますが、全体で千歳側からの着陸が2万6,611回、苫小牧側が1万2,851回というふうになっておりまして、比率で申し上げますと、千歳側が約67%、苫小牧側が約33%といった状況となっております。

これを時間帯別に見た場合、7時から21時59分まででは、千歳側が2万6,264回、苫小牧側が1万2,690回といった結果となっております、比率で申し上げますと、千歳側が約67%、苫小牧側が約33%といった結果となったところでございます。

また、22時から翌朝の6時59分まで、いわゆる深夜・早朝枠の部分でございますけれども、こちらにつきましては、千歳側が347回、苫小牧側が161回といった実績となっております、比率で申し上げますと、千歳側が約68%、苫小牧側が約32%となっております。いずれのデータにおきましても、千歳側からの着陸が約3分の2を占めているといった状況となっているところでございます。

なお、離陸につきましては、先ほどの説明、それから、資料の一番下の破線のところでも補足させていただいております。なかなか正確な数字を把握しかねるといったことがございますけれども、推計といたしましては、千歳側からの離陸回数が苫小牧側の着陸回数とほぼ同数の約1万2,900回ぐらいであろうと。それから、苫小牧側の離陸回数につきましては、千歳側の着陸回数とほぼ同数となります約2万6,600回程度であろうという推計がなされるところでございます。

令和3年度航空機騒音測定結果等に係る説明は以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問などがございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） 特に質問等がなければ、議題（２）の令和２年度航空機騒音測定結果等については報告済みとさせていただいてよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、報告済みとさせていただきます。

次に、議題（３）住宅防音対策の進捗状況等について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） それでは、引き続きご説明をさせていただきたいと存じます。

議題の３つ目、住宅防音対策の進捗状況等について、資料３の関係になります。

まず、資料の６ページ、資料３－１、「住宅防音対策の進捗状況等について」をご覧くださいと存じます。

まず、１の「令和３年度の実績等」についてでございますが、表の上段、太枠で囲われました千歳市の部分をご覧くださいと思います。

表の中の数字につきましては、高齢者優先枠を含めました数値という形を取っております。表の左側になりますが、意向調査で回答がありましたのは、一般住宅で申し上げますと１，７４８件、１，７９０世帯、集合住宅で申し上げますと１３２件、７９７世帯、合計で１，８８０件、２，５８７世帯となっております。

工事の実績についてでございます。

一昨年度、令和２年度までに、一般世帯で申し上げますと４５３件、４７２世帯、集合住宅で２９件、２０２世帯、合計で申し上げますと４８２件、６７４世帯の工事を実施したところとなっております。

昨年度、令和３年度におきましては、一般世帯で１１４件、１１４世帯、集合住宅で５件、３２世帯、合計で１１９件、１４６世帯の工事を実施しております。今年度、令和４年度につきましては、一般世帯で１３９件、１４３世帯、集合住宅で１７件、１３０世帯、合計で１５６件、２７３世帯の工事を現在までのところで予定しております。

なお、今年度末までに、令和４年度の計画数を含めた見込みではございますけれども、一般世帯で７０６件、７２９世帯、集合住宅で５１件、３６４世帯、合計で７５７件、１，０９３世帯の工事の実施を考えておりました。実施率で申し上げますと、件数で４０．３％、世帯数で４２．２％という数字になるものと見込んでおります。

なお、資料には書いておりませんが、今年度実施分に係ります８月１日現在の着工状況につきましては、７５件、１１１世帯を現在までに着工しているという状況です。

苫小牧市も合わせました令和３年度工事実績につきましては、一般住宅と集合住宅を合わせました合計では１４０件、１６７世帯となっております。

全体の合計件数では、令和4年度末の見込みとはなりますけれども、今のところ、件数で887件、1,254世帯、実施率では件数で41%、世帯数で42.5%という数字になるのではなかろうかと考えております。

続きまして、その下にございます2の「令和4年度の実施計画について」でございますが、この数字につきましては、先ほどの上の数字にございます令和4年度計画数に係ります年度別予算の内訳という形で整理しているところでございます。

今年度、令和4年度分の予算に関しましては、一般住宅で106件、110世帯、集合住宅で12件、101世帯、合計で118件、211世帯となっております。昨年度からの繰越分としては、令和3年度予算の繰越の部分になっておりますが、こちらのほうでは、一般住宅が33件、33世帯、集合住宅が5件、29世帯、合計で38件、62世帯といった形となっているところでございます。

内訳については、こういう形で整理をしております。

なお、令和3年度からの繰越分についてでございますけれども、現在、工事を実施している分につきましては、令和3年度予算を繰り越して今年度に使っているという経過もございまして、これをさらに1年先延ばしするというのは、実は予算の制度上できないことになっておりますものですから、施工主さんにつきましては、工事を延長することがないようにご協力をお願いできればと考えております。

続きまして、その下の表になっておりますが、3の「高齢者優先枠の令和3年度の実績等について」でございます。

令和3年度につきましては、一般住宅で8件、9世帯の工事を実施したという状況となっております。

令和4年度以降の計画数についてでございますけれども、計画数のR4からR6以降、この数字を合計いたしますと51件、61世帯を今後予定しているところとなっております。千歳市に関しましては高齢者優先枠の活用に当たりましては、トータルで67件、79世帯という数字になると、現在、我々も見込んでいる状況となっております。

なお、平成30年度の地域協議会、令和2年度の勉強会の席上でもご報告申し上げておりました、道内7空港の一括民間委託に際しまして、空港運営事業者であります北海道エアポート株式会社から、住宅防音対策費用の一部を負担いただいているところでございます。

現在までのところ、令和2年度から実施しております高齢者優先枠という事業を実施する費用に充てさせていただいております。これまで優先的にこの事業を実施してきた状況となっておりますことを改めてご報告申し上げたいと考えているところでございます。

次に、資料の7ページです。

4の「防衛省官舎（寿官舎）の住宅防音工事の実施について」でございます。

住宅防音対策事業の対象となります官舎、公営住宅等の集合住宅につきましては、それぞれの施設における将来の改修計画などを考慮するために、管理者と個別協議を行った上

で、工事実施時期などを設定することとしていたところでございます。

そのような中にありまして、令和2年度になりますけれども、防衛省の寿官舎の管理者でございます東千歳駐屯地からのご要望を受けたところから、個別協議を経た上で、昨年度の地域協議会におきまして、居室への冷房装置設置に関する工事ということで、本年度から実施する予定で説明させていただいていたところでございます。

地域の住宅防音工事の進捗に影響を及ぼさないように、本年度から令和7年度にかけて、年に40世帯程度ずつ平準化した形で工事を実施していく予定としているところでございます。

次に、その下の5の「令和4年度の現地調査について」でございます。

こちら、高齢者優先枠を含めました数値という形で整理させていただいております。4月18日から順次、現地調査のほうを財団を中心に進めさせていただいております。これまで、5回に分けて現地調査を実施したところでございます。今年度につきましては、162件を予定しているところでございます。

次に、資料の中段でございます「住宅防音工事の流れ」というところでございます。これは例年ご説明させていただいているところでございますけれども、改めてご説明をさせていただきたいと存じます。

公益財団法人新千歳空港周辺環境整備財団では、皆様から提出いただきました意向調査表に基づきまして、評価基準により順位付けを行っているところでございます。

対象者の工事予定時期前年度に、財団のほうから候補住宅通知書を送付させていただきます。順次、現地調査を実施しているところでございます。

調査終了後、年度内に地域の皆様が設計事業者と契約をしていただきまして、設計を行った後、翌年度から工事を実施するといった流れになっております。

この手続については従来までと変更は特にございませぬけれども、改めましてご案内申し上げます。

工事時期などにつきまして、詳しくは財団までお問合せいただければと考えております。よろしくお願いたします。

最後になりますが、このページの一番下段に参考と掲載させていただいております「新千歳空港周辺環境整備財団組織図」についてでございます。

昨年からの変更点としまして、枠の上段の理事会というところですが、これまで、財団の理事につきましては、昨年度までは10名体制となっておりますけれども、本年6月の役員改選に伴い理事が1名減となりまして、現在、9名体制で理事会を運営しているところでございます。

続きまして、資料の8ページをご覧ください。

また横表に戻っていただく形になりますが、資料3-2、「集会施設（町内会館）に係る住宅防音工事について」です。

集会施設（町内会館）に係る住宅防音工事につきましては、1の「経過」にありますと

おり、令和2年8月の地域協議会におきまして、対象となる集会施設、町内会館や工事内容等につきまして説明させていただきまして、その後、千歳市を通じまして対象となる集会施設を有する町内会の皆様に、工事希望の有無や希望工事の内容、工事希望時期などについて確認させていただいたところでございます。

その結果につきましては、昨年10月の地域協議会で報告させていただいたところですが、この調査結果を基に、希望時期が重複する対象町内会館などにつきましては、別途調整をさせていただいたところでございます。

その結果といたしましては、2の「集会施設（町内会館）の住宅防音工事」の黒枠で囲っているところでございますけれども、こちらの工事实施時期の欄に記載のとおり、地域の住宅防音工事の進捗に影響を及ぼさないように、令和5年度から令和10年度の6年間でございますけれども、各年度1か所ずつ実施することにしたところでございます。

住宅防音対策の進捗状況等に係る説明は以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問等がありましたらお願いいたします。

●A委員 今、住宅防音工事の進捗状況についてご説明いただいたのですけれども、約3年近くのコロナ禍で、防音工事を辞退された方もおりますし、工事が非常に停滞するのではないかなと思っていたのですけれども、その辺の影響と、もう一つは、今年度、ウッドショックということで工事資材が値上がりしまして、その辺の影響があったかどうか、簡単にご説明いただきたいのですが。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 資材価格高騰に伴う工事への支障ということと理解したところでございますけれども、基本的に建築資材につきましては、主に北米ですとかヨーロッパから輸入されている資材単価、木材単価の価格が上昇しているところで、そのほかにも屋根とか外壁に使用します金属板の価格、それからコンクリートもかなり値上がりしているという話を聞いているところでございます。

住宅防音に関します工事費も上昇しているところなのですけれども、現在までのところ、工事の実施に当たりましては、大きな支障は出ていないということをお聞きしているところでございます。

ただ、そうは言いつつも、今後また上がるといったことも当然予想されますことから、木材等の価格の供給動向を注視しながら、道の建設部、防衛局、それから、千歳市とも情報共有を図りながら、防音工事に今後も支障が出ないように対応してまいりたいというふうに考えているところでございます。

それと、コロナによる影響という部分について、感染者が増えているということはございますけれども、事業者におきましては、マスクですとか手指等の消毒の徹底を図りながら、打合せ等を行っているところでございます。

それから、今年度の事業の状況につきましては、実施をしております156件、270世帯のうち、先ほどご説明させていただきましたけれども、75件、111世帯ほど着工

済みとなっておりますことから、引き続き適切に実施できるように対応してまいりたいというふうに考えているところでございます。

●A委員 分かりました。ありがとうございます。

●千歳市（空港政策課長） そのほかにもございますでしょうか。

●B委員 今回の進捗状況についてなのですが、先ほど予算の繰越分がないようにと言われましたけれども、当初、意向調査で、この表に載っているように一般住宅1,748件となっております。今年度、パーセントで言うと42%ぐらいまでが大体終わっている形になっておりますけれども、今後、あとどれくらいで完了するのか、それを教えてもらいたいです。

というのは、はっきり言って、梅ヶ丘町内会は、町内会館もありませんし、興味があるのは一般住宅の防音工事なのです。それぞれ財団のほうに直接確認に行ったり、電話で確認しますと、あなたのところは大体3年後とか5年後とか大体同じようなことを言われているのですけれども、優先順位によって本当にやっておられるのか、

最終的にあとどのくらいで完了するのか、これをちょっとお聞きしたいです。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 現在の進捗ですが、梅ヶ丘町内会につきましては、件数では令和2年度までに26件、それから、令和3年度、昨年度は5件ほど実施をしております。令和3年度までの実績といたしましては、トータルで31件を実施している形になっているかと思えます。

それから、いつ頃までに終わるのかというところでございますけれども、基本的には事業的には特段大きな決めという形は取らずに進めているところでございますけれども、予算的には令和16年までは少なくともやるという形で進めているところでございますので、そのようにご理解をいただければと考えているところでございます。

●B委員 分かりました。

当初、意向調査をした件数が1,748件となっているのですけれども、それ以降に増えるということはあるのですか。このときに希望しなかった人も、これ以降に考え直して希望しますという人も出てきているのですか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） お答えいたします。

今、ご質問のありましたそれ以降の増減という部分ですけれども、当初は予定していなかったけれども、やはり工事をやりたいという方もいらっしゃるということもございますので、増えるということは当然あり得ると考えていただければと思います。

●B委員 それについては、優先順位というのは最後のほうにならないで、高齢者及び障がい者等の優先順位に入るわけですか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） その考え方につきましては、基本的な評価基準というものがございますから、そちらのほうに合わせながら整理をする形になるかと思えます。

●B委員 ありがとうございます。分かりました。

●千歳市（空港政策課長） そのほかに質問等はございますでしょうか。

●C委員 この質問については、前回もちょっとお伺いしたのですが、今、実際に工事行われている積算基準は、あくまでも道単価を基準として積算されていると思うのですよ。これについて、道単価の見直しというのは毎年行われるのか、あるいは、単価の見直しが行われる時期というのは定期的なのか、その辺を伺いたと思います。

もう一件につきましては、私の家の近くで工事をやっているのですが、工事が始まったのは、実際に足場を組み出したのが2月の末なのです。足場が外れたのが8月のお盆過ぎなのです。床面積が40坪ぐらいの新規の工事なのです。3月から始まって、足場が外れたのはお盆が終わってからです。

どうしてこんなにかかるのかなというふうに聞かれたのですよ。たまたま私が行ってみたら、工事を施工する人がたった1人なのです、この間。足場を組み立てるのと、足場を外すのと、それを除くと大きな窓枠を上げるときだけ補助者が来るのです。とにかく4か月間工事をやっているわけです。家を空けられないわけです。

この工事についてはほとんどが窓枠ですから、これについて、どうこうというわけではないのですけれども、恐らく人件費の問題で、請け負われた方が施工主との話合いで多分行われたと思うのですけれども、これについて道はどうお考えなのか。

もう一つ、今、私の家の近所でアパートの工事をやっております。たまたま、つい先日、話をする機会があって、アパートとか一般住宅については、木材についてはあまり心配がないと。一番心配されているのは窓枠なのです。要するに金物です。これが恐らく、近い将来、希望どおり入ってこないのではないかと非常に心配しておりますが、それについてどう見通しをされているのか、お伺いします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） C委員のほうから3点ほどご質問をいただいたと考えております。

まず1つ目の単価の改定のご関係でございますけれども、こちらのほうにつきましては、防衛省のほうに沿った形で進めさせていただいております。年に1回、防衛省は見直しを行っておりますものですから、その単価基準を使いながら、我々も価格の見直しを行っているところでございます。

それから次に、業者さんの不足という観点でございますけれども、まず、設計業者につきましては、ご存じのとおりだと思いますけれども、6枠当初から比較しますと設計業者の数が減っているといった状況になっております。工事施工業者につきましては、大きく減ってはいないという状況にはあるのですけれども、実際の工事の実施の状況につきましては、我々のほうも、今、つかんでいる情報がないところがございますから、確認の上、改めてご報告をさせていただきたいと考えているところでございますが、よろしいですか。

●北海道（交通企画監） 資材高騰の関係は、ガラスですとか、アルミですとか、ウクライナ情勢もございまして、資材が高騰しているのは承知しているのですけれども、できる限り我々の防音対策に支障のないように、これは事業者さんともしっかり打合せをさせて

いただいて対応してまいりたいと考えております。

それから、足場が長期間組まれたままだというのは、私も自宅にそういうものが構築されると非常に気になりますし、その点は、事業者さんの段取りもあるかとは思いますが、そういうお話が住民の方から寄せられているという点は、丁寧に事業者のほうにも説明して対応していきたいというふうに考えております。

まずは現場としっかり話し合っただけですので、ご理解いただければと思います。

お答えになっているかどうか、すみません。

●C委員 それは、財団のほうで、あまりにも完了が遅いところの施工業者については確認すべきだと思うのですよ。当然、施工が始まったとき、あるいは施工完了の報告があると思うのです。その間があまりにも長いところは、ぜひ財団のほうでもその辺を確認して業者さんを指導するとか、そういったことをしていただかないと。工事をやってもらっている人は恩義があるものですから、言いたいことも言えないわけです。4か月も足場が組まれて、本当に大変な思いをされましたと聞いていますので、その辺もきちんと財団のほうで、工事の開始時期から完了報告が出てくるまでの期間があまりにも長いところについては、一体どうなっているのかということを確認する手段もあるのではないかと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

●北海道（交通企画監） かしこまりました。貴重なご意見をありがとうございます。

●千歳市（空港政策課長） そのほかにご意見、ご質問等をお願いします。

●D委員 先の町内会館の説明会の折にもちょっと申し上げたのですが、一般住宅の件で質問をさせていただきます。

うちの場合、C区域ということで優先順位が低いということは理解しておりますが、会員の声の中で、高齢者夫婦2人世帯なのですが、現地調査に来た折に、とてもではないけれども、内部はいじれないということで、補完工事、それから、基金事業を利用して外回りの補修程度にしたというようなことを聞きました。

これも、一応防音工事が終わったということでカウントされるのかということが1点と、今後、高齢社会の中で、どんどん高齢者が増える中で、こういうケースがどんどん出てくるのではないかと思うのですね。その辺はどのようにお考えですか、お聞きしたいと思います。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） ご質問の件でございますが、まず、補完工事、基金事業のほうで工事をやられたということでございましたら……

●D委員 まだやっていないと思います。現地調査に入ったと聞いています。ですから、来年度の工事になるのかなと思います。そのときに、先ほど言いましたように、年齢的にも無理ということで、外回りの補修程度の申込みをしたという話を聞いたのです。それでも防音工事1世帯ということでカウントされるのか。

今後、そういうことが増えると、本来の防音工事にはならないのではないかという疑問

が生じます。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団(事務局長) ご質問の回答になるかどうか分かりませんが、まず、当初予定していた工事に基づいて現地調査の順番が来ましたら、対象のお宅に参ります。そのときに、施主の方が順番を待ってられないので早めたいということで、工事内容の変更をご希望される場合がございます。例えば、当初考えていなかったけれども、「エアコンを設置したい」というふうになれば順位は上がりますので、順位の上げ下げの変更のタイミングがそこでございます。

以上から、当初、壁や窓をやる予定だったのを「時間がかかるのでやめて、エアコンを設置したい」ということであれば、工事変更をさせていただきますけれども、それはそれで住宅防音工事の一つとしてカウントしますので、終わりということになります。

●D委員 順位の上げ下げということですが、大体、現地調査に入ると、次の年に工事に入りますよね。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団(事務局長) そうですね。基本的には翌年度の工事の部分は前年度に入るという形です。

●D委員 だから、工事の順位を上げ下げするというような問題は発生しないで、ただ、高齢者夫婦ということで内部はいじれない、それで外回りという懸念が、さっきも言いましたようにどんどん増えてくるわけですよ、多分。その辺はどうお考えですか。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団(事務局長) その部分は、今後、実際に工事を予定される方とお話いとか、設計の段階でいろいろ変わってくる部分があると思いますので、そこはケースによって、財団としても、設計業者、あるいは実際に工事をされる方と話し合いをしながら進めていきたいというふうに考えております。

現状、当初の意向調査等でご希望されている工事に従って優先順位をつけて行っておりますので、その順番が参りましたら、ご連絡の上、現地調査等を行っております。やはりそれぞれのケースで事情が変わるといえるのはあると思いますので、その節には財団のほうにご連絡いただければ、適宜対応してまいりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

●北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) それと、先ほど高齢者の方の優先枠の関係のお話もございましたけれども、基本的にこれまで地域協議会で皆様方のほうからいろいろご意見をいただいた中で、高齢者の方の優先というのを望む声が非常に多かったということもございましたものですから、協議会の場でご相談させていただきながらこれまで進めてきたところもでございます。

今、財団の事務局長のほうからもございましたけれども、今後、場合によっては個別的にいろいろ対応していきたいと考えておりますので、財団にもご相談いただきながら進めていきたいというふうに思っております。

●D委員 分かりました。以上です。

●A委員 再度、申し訳ありません。

ちょうど今、工事の話が出ましたので、これは私事なのですが、私も今年の春に実家を解体いたしましたので、アスベストの検査をしなければ駄目だよということで、検体を3体ほど取って、費用的には1検体3万円から4万円くらいで、大体15～16万円ぐらいはかかったのです。幸いにもアスベストはなかったもので、それ以上の経費はかからなかったのですが、今回の防音工事のほうも、話を聞きますと、アスベストの絡みで法案が施行されましたので、そのアスベストの工事の概要について、概略のご説明をいただければありがたいと思っております。

特に私が心配しているというか知りたいのは、アスベストの対象住宅、これは基準があると思うのですが、その基準はどうなっているのか。

二つ目は、検査の費用です。これは、当然、道なり誰かが負担すると思うのですが、その辺の負担についてです。

もう一つは、もしアスベストが出た場合の工事費用です。特に、先ほど単価の問題も出たのですが、もしこれが限度額を超えた場合に、アスベストが出た場合は、当然、限度額を超えて、それぐらいの工事費用になるようなことも想定されるのですが、その辺の心配はあるのかなのか、その辺も確認したいのです。

それから、もしアスベストが出た場合の工事の内容です。こういうふうにして処理しますということを、簡単で結構ですので、ご説明いただきたいと思います。

●北海道(新千歳空港周辺対策担当課長) アスベストの関係のご質問と捉えております。

まず、アスベストの関係の経緯でございますけれども、こちらにつきましては、昨年4月1日に大気汚染防止法が改正・施行されたということに伴いまして、アスベストの飛散防止対策の強化ということが謳われたところでございます。この中で、全ての石綿含有建材にまで規制対象というものが拡大されまして、そうなることによって、一般の住宅にまでその部分がかかってきた状況というふうに我々もお聞きしているところでございます。

その工事に当たりましては、法律改正に伴いまして、アスベストに関します事前調査をまずやりなさいということが出されておりました。アスベストが含有された建材が使われているといったようなことがあれば、その除去工事も併せて義務付けられたこととなっております。

それを受けまして、さらに今年4月1日からなるのですが、事前調査結果につきまして労働基準監督署と都道府県のほうにも報告するといったことが義務付けをされた形になっております。さらには、来年、令和5年10月からは、今度はアスベストの調査をする人は資格を持っていないといけないというように、今後さらに厳しくなってくると我々も話を聞いております。

もう一つ、費用的な部分になってまいりますけれども、この住宅防音工事に係るアスベストに関しましては、これまで、北海道防衛局のほうですとか、千歳市、苫小牧市、それから財団とも制度の運用等についてこれまで検討してきたところでございます。

道としては、これまでの住宅防音工事と同様に、防衛省の取扱いに準拠しながら進める

という方向で現在考えているところがございますけれども、まだ防衛省のほうでも取扱いが検討されているとお聞きしておりまして、まだ結論が出ていないという状況になっているところがございます。

とはいえ、今年度も住宅防音工事というのは既に着手されていて、先ほどA委員のほうからもございましたが、既に始まっているところもあるということもございますことから、我々としたしましては、その工事が着実に実施できるように、また、地域住民の皆様方に新たな負担が発生しないようにということを念頭に現在検討しているといった状況となっているところがございます。

最終的な整理については、今現在、鋭意進めているところがございますので、ご理解をいただきたいと思えます。

●A委員 ありがとうございます。

これからの課題はたくさんあると思うのですけれども、普通の一般の解体であれば、誰も住んでいないところを解体するので、健康被害とか安全面のことはあまり考慮しなくてもいいと思うのですけれども、防音工事は、人がそれぞれ生活している中で解体工事、除去作業をやると思いますので、その辺は十分注意して工事をやっていただきたいというふうに思います。

ご説明ありがとうございました。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 1点だけ回答漏れがございました。

工事の方法なのですけれども、万が一アスベストが見つかったといった場合には、除去工事をするに当たっては、具体的にどういうふうにするかというのは我々も承知していないところがあるのですが、少なくともアスベストが飛散しないような工事の進め方で行っていく形になるかと我々も理解しているところがございます。

ご回答が遅れて申し訳ございませんでした。

●A委員 検体を採取する対象住宅はどうなりますか。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 対象住宅についてでございますが、基本的には、事前調査というところで設計図なり関係図書などを参考にしながら確認していただく格好にはなるかと思うのですけれども、その時点で分かれば基本的に問題ないかと思えます。ある、ないというのがそこで見えれば一番いいところではございますが、実際に図書、設計図等で分からない場合は、A委員からお話がありましたように、そこで初めて検体を取って分析しなければならない。そこでアスベストが出てくれば、当然、除去工事が必要になり、出なければそのまま工事に入る、という流れになると我々も聞いているところがございます。

●A委員 分かりました。

●千歳市（空港政策課長） ほかにございますでしょうか。

●C委員 再質問で申し訳ありません。

実は、私事なのですけれども、たまたま防衛省の建具の復旧の年数が来て、調査が入っ

たのです。実際に替えなければならないということで、替える手続を進めたのです。

ところが、防衛省の設計を担当していただいた、今までずっとやっていただいた方が、防衛の設計業務については、今後は断っていきますということなのです。それはなぜかという、詳しくは聞かなかったのですが、あまりにも提出書類が多いと。例えば、建具一つ替えるのに書類が多過ぎて時間がかかり過ぎるということで、今、事務所の何人かが相談して、防衛のこういう建具復旧工事はもう断りましょうという方向に進んでいるという話を聞いたのです。

我々としてみれば、設計ができなければ窓口を開けないのです。道の場合は上限が決まっていますからそういうことはあり得ないと思うのですが、部分的な機能復旧になってくると、現在の防衛と同じような状況になり得るのではないかと思うのです。

例えば、小さな建具の復旧工事の場合、そんなに手数がかかってほかの仕事ができないということで断ると。

これは、将来的には24時間に関連してくるのかなと私は思っております。

この辺について、どのような要因が考えられるのか、財団のほうが詳しいと思いますので、お聞きしたいと思います。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団(事務局長) 委員のおっしゃっている部分は、改めてご確認する部分もあると思いますけれども、財団といたしましては、各助成対象となる工事メニューに必要な図面をお願いしておりますので、不必要なものを図面として要求しているということは現実的にはございません。

今、お話があったケースがどういうことなのか、また違った場面でもお話しいただければ、よりすれ違いがいいのかなと思っております。

図面の多さ云々は工事のメニューによって変わってきますから、何枚が必要だということところは、今、一言では申し上げられません。その設計会社がどういった工事の部分を行っているのか、ちょっと分かりかねますので、また違った場面で情報等をいただければご説明させていただきたいと思っております。

●C委員 将来的に24時間の事業が起り得る話なので、ぜひ一度、要因を探ってみていただきたいと思っております。

●公財) 新千歳空港周辺環境整備財団(事務局長) 承知いたしました。財団としても情報収集しながら対応してまいりますので、よろしく願いいたします。

●千歳市(空港政策課長) ほかにございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●千歳市(空港政策課長) ないようですので、議題(3)住宅防音対策の進捗状況等については報告済みとしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●千歳市(空港政策課長) それでは、報告済みとさせていただきます。

次に、議題(4)地域振興対策の進捗状況等について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 引き続き、議題の4つ目、地域振興対策の進捗状況等につきましてご説明申し上げたいと思います。

資料につきましては、9ページ、資料4になっております。

初めに、1の「事業の概要等」についてでございますけれども、千歳市の地域振興対策事業につきましては、平成28年度から、道と市の補助によりまして、毎年2.6億円ずつ10年間、新千歳空港周辺環境整備財団に総額26億円の基金を新たに設置いたしまして、この基金を活用いたしまして、防音機能維持・拡充等対策事業ですとか防音機能確保対策事業、生活環境整備等事業を実施していることになっております。現在、千歳市と財団が主体となって事業を進めている状況となっているところでございます。

次に、その下の2の「事業の執行状況等」についてでございます。

令和3年度実績といたしましては、先ほど申し上げましたとおり、新たに2億6,000万円の基金を造成いたしております。

執行額欄にありますとおり、約1億3,900万円を執行したという実績となっております。令和3年度の残額につきましては、約1億2,100万円となっているところでございます。

今年度、令和4年度につきましては、昨年度と同様、新たに2億6,000万円を造成して、1億3,000万円ほどを執行見込みと伺っております。

中身につきましては後ほど説明いたしますが、下段の進捗状況欄にございますとおり、防音機能維持・拡充等対策事業等に充てていくと現在は考えているところでございます。

現時点におきましては、令和4年度末現在ということで、9億7,021万3,848円が繰越見込みという状況と考えているところでございます。

次に、3の「事業の進捗状況等」についてでございます。

防音機能維持・拡充等対策事業、防音機能確保対策事業につきましては、住宅防音工事とセットで実施することになっておりまして、令和3年度の実績といたしましては、表にありますとおり、97件、9,988万4,758円の執行という形になっているところでございます。令和4年度につきましては、先ほどご説明申し上げたとおり、1億3,000万円ほど、件数では115件の工事を現在見込んでいるという状況となっております。

その下、生活環境整備等事業についてでございます。

令和3年度実績といたしましては、11月に完成いたしました中央長都の中央釜加線道路整備事業に対しまして約3,900万円を支出しております。

この事業の実績につきましては、令和2年度までの実績と合わせまして約4,200万円の経費を支出しているという状況となっております。

その他、令和2年度までの実績といたしまして、表の予算額の令和2年度までの実績欄のところになっておりますが、平成29年11月に完成いたしました根志越温泉施設改修事業に6,000万円、平成30年8月に完成いたしました駒里町内会館改修等事業に6,000万円、平成28年12月に完成いたしました祝梅第一道路整備事業に約4,000

万円、合計で2億217万7,722円を支出しているという状況となっております。

先ほどの防音工事関連事業費との合計では、8億4,978万6,152円の執行ということになっております。

道といたしましては、事業の円滑な実施につきまして、千歳市、財団とも連携を図りながら取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

地域振興対策の進捗状況等につきましては以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問等がございましたらお願いします。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） ないようでしたら、議題（4）地域振興対策の進捗状況等について、報告済みとさせていただきますよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、報告済みとさせていただきます。

次に、議題（5）新千歳空港周辺地域振興基金について、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長） 最後の議題になっておりますが、5つ目、「新千歳空港周辺地域振興基金について」ということで、資料5、11ページをご覧くださいと存じます。

まず、1の「基金の概要」についてでございます。

造成目標額30億円に対しまして、令和2年度末現在で19億5,900万円の造成済となっております。令和3年度に2社から分割寄附の最終年度分ということで70万円の寄附金を受けたことから、令和3年度末造成済額につきましては、表の一番右端の19億5,970万円となったところでございます。

30社合意を契機といたしまして、道内で事業活動をされている企業などを中心に基金造成への協力要請をこれまで行ってきておりました。その結果、現在までのところ、17社から総額1億1,750万円の寄附の表明をいただきまして、この寄附表明をいただきました企業からは、令和3年度末までに全て納入いただいたという状況となっているところでございます。

これまでに寄附をいただいた主な企業につきましては、資料の真ん中に書いております主な寄附企業の欄のとおりとなっております。

次に、2の「基金造成に向けた取組」についてでございます。

令和3年度まで、新型コロナウイルス感染症の影響などによりまして、企業等に対する個別の協力要請につきましては、差し控える、もしくは中断したところとなっております。現在、新規感染者数が、全国的には、まだまだ拡大傾向にもあるといった状況にはございますが、地域からのご要望があったことも踏まえまして、今後の感染状況や社会情勢などを見極めながら、経済界等とも相談しながら、再開の時期、要請先などについて協議の上、今年度につきましては、何とか寄附要請活動を再開していきたいと考えているところでござ

ざいます。

道といたしましては、引き続き基金の確保に向けて取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

また、今後の検討課題ということになりますけれども、造成済となっている基金につきましては、今後、現在、国債や社債といった形で運用を行っているところでございます。その上で得た運用益につきましては、地域の町内会活動等に充てているといった状況となっております。こちらのほうにつきましては、今後、順次満期を迎えるといったこともございますものですから、今後、この基金の運用に関しまして財団とも検討を進めているといった状況でございます。

現在、まだ具体的な検討内容をお示しすることはできない状況にはございますけれども、できるだけ早く報告できるような形で皆様方のほうにお示ししてまいりたいと考えているところでございます。

この1点だけを申し添えさせていただきまして、新千歳空港周辺地域振興基金に関する説明を終了したいと思います。

以上でございます。

●千歳市（空港政策課長） ただいまの説明について、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

ありませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） ないようでしたら、議題（5）新千歳空港周辺地域振興基金については、報告済みとさせていただきます。よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長） それでは、報告済みとさせていただきます。

最後に、これまでの議題以外にも結構ですので、皆様から何かご意見やご質問等がございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●北海道（交通企画監） 本日は、大勢の皆様から様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

高齢化が進展する中で、今後さらに様々なニーズが発生してきますし、状況の変化に対する対応が必要だというご意見もいただきました。改めて、重く受け止めております。

また、アスベストに関しましても、住民の皆さんもご不安な点もございますので、何よりも安全対策に十分配慮しながらしっかりと対応していきたいというふうに思っております。

今後とも、我々行政だけではなく、関係者の皆様としっかり情報共有させていただいた中で、できる限り丁寧な対応をしてまいりますので、ぜひ今後ともご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。

4. 閉 会

●千歳市（空港政策課長） それでは、これをもちまして、令和4年度第1回地域協議会を終了させていただきます。

本日は、お忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございました。

以 上